

令和元年度 個人積算線量測定
小中学生の第2回測定結果を
お知らせします



ターゲット 3.9

令和2年1月17日
郡山市教育委員会
学校教育部学校管理課
担当：野田 昌秀

TEL：924-3421

SDGs ターゲット 3.9 「大気の汚染による疾病件数を大幅に減少させる」

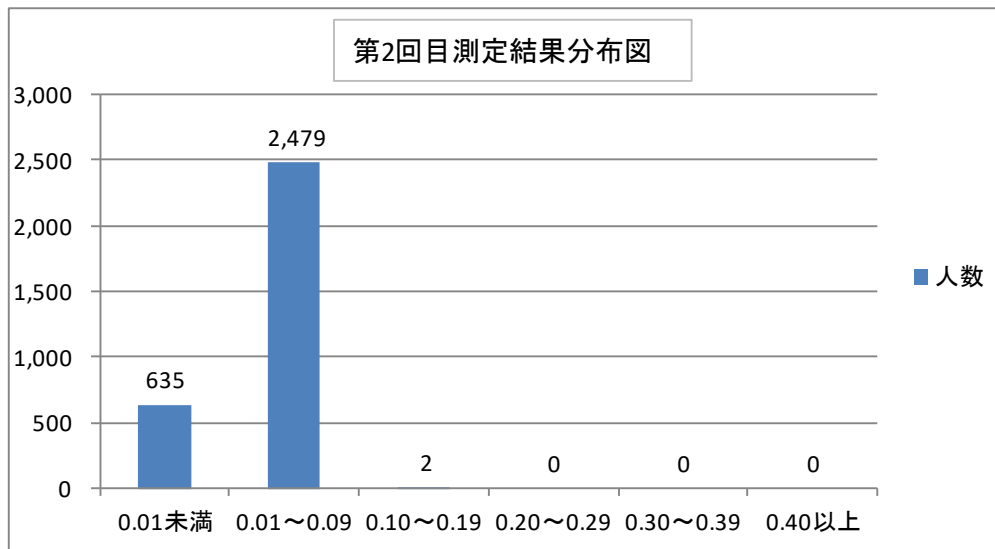
小中学生を対象とした令和元年度第2回個人積算線量計測定結果は次のとおりです。

なお、測定結果については、郡山市原子力災害対策アドバイザーの方々から、測定者全員が「健康に影響を与えるような数値ではない」とする専門的な見解をいただいております。

- 1 測定概要 (1) 測定者数 3,116人
(2) 測定対象期間 令和元年8月29日(木)～令和元年11月6日(水) 70日間
(3) その他 測定結果の数値は、測定対象期間の自然放射線被ばく相当量 0.12mSvを除いた数値です。

2 測定結果

	測定値(70日間)	年間推計値
最高値(mSv)	0.12	0.63
最低値(mSv)	0.01未満	0.05未満
平均値(mSv)	0.02	0.11



(参考：年間推計値)

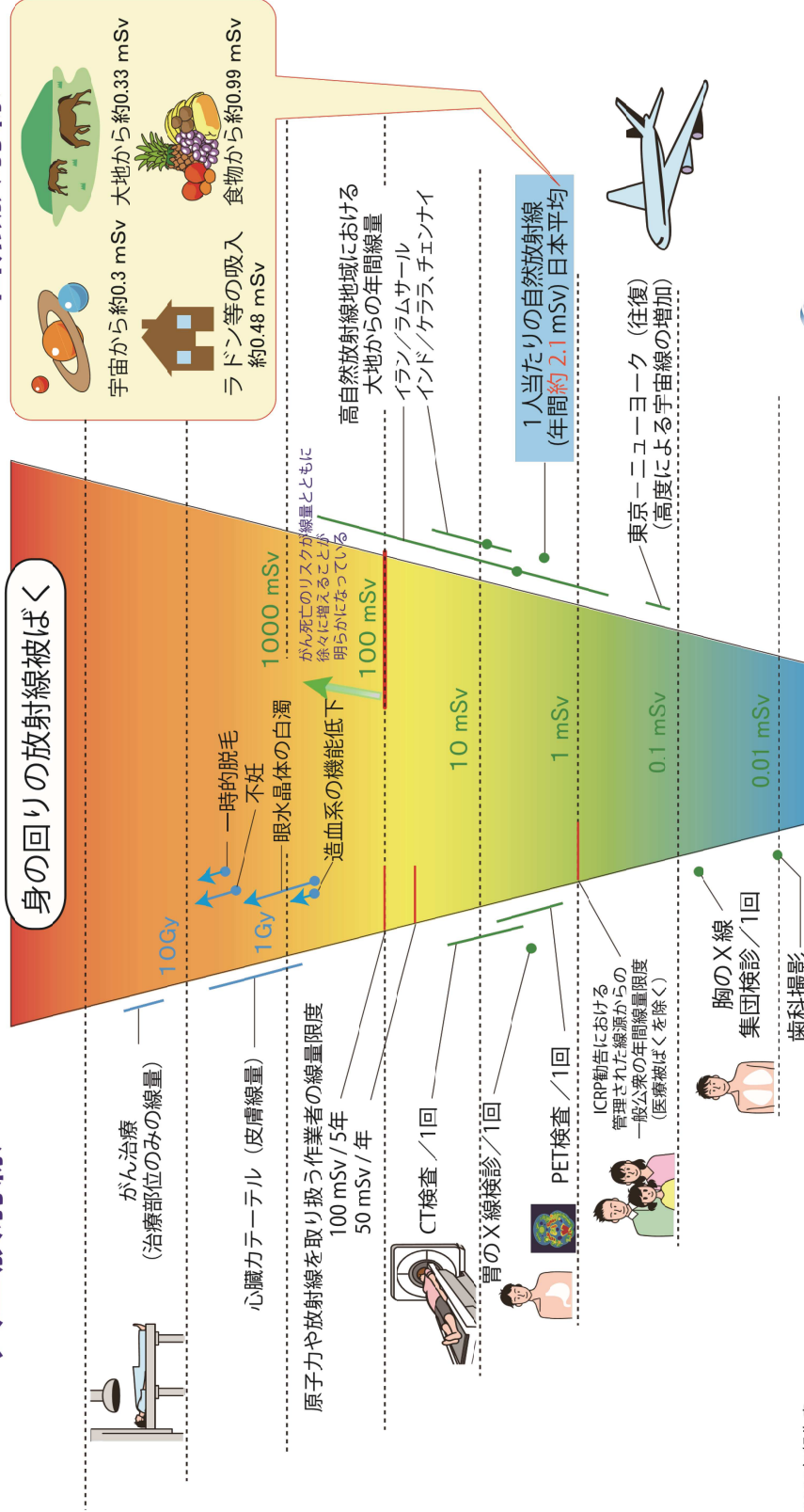
mSv	1未満	1以上2未満	2以上3未満	3以上	合計
人数	3,116人	0人	0人	0人	3,116人
割合	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

※ 放射線被ばくについては、裏面の資料を参考願います。

放射線被ばくの早見図

人工放射線

自然放射線



- ・ UNSCEAR 2008年報告書
- ・ ICRP 2007年勧告
- ・ 日本放射線技術師会医療被ばくガイドライン
- ・ 新版 生活環境放射線 (国民線量の算定) などにより、放医研が作成 (2013年5月)

【ご注意】

- 1) 数値は有効数字などを考慮した概数です。
- 2) 目盛 (点線) は対数表示になっております。目盛がひとつ上がる度に10倍となります。
- 3) この図は、引用している情報が更新された場合変更される場合があります。

【線量の単位】

各臓器・組織における吸収線量・Gy (グレイ)
放射線から臓器・組織の各部位において単位重量あたりにどれくらいエネルギーを受けたのかを表す物理的な量。

実効線量: mSv (ミリシーベルト)

臓器・組織の各部位で受けた線量を、がんや遺伝的影響の感受性について重み付けをして全身で足し合わせた量で、放射線防護に用いる線量。各部位に均等に、ガンマ線 1 Gy の吸収線量を全身に受けた場合、実効線量で1000 mSvに相当する。



QST 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
放射線医学総合研究所

<http://www.qst.go.jp>



Ver 180516